



日本キリスト教団  
三軒茶屋教会  
http://sanchurch.jp/

# 三軒茶屋 教会通り

〒154-0024  
東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5  
TEL/FAX: 03-3418-4933  
発行: 三軒茶屋教会 広報部

教会にとつて恐るべきことがある。その教会の敷地は広く、会堂の大きさもゆとりがある。立地条件も良く、駅から徒歩圏内で人通りも多い。かつては多くの若者が集い、礼拝出席者も増えていた。当時を体験した信徒にとつては懐かしい思い出が詰まった場所だ。

しかし、今となつては、礼拝出席者は10名以下。牧師を招聘することができず、代務者も数年で替わり続けている。名が知られている説教者を次々に招いて新来会者を増やそうとしたが、思惑通りに事は進まない。

役員会や総会を組織することも難しくなり、もはや存亡の危機に立たされている。打てる手も、もうなくなりつつあり、活動休止も視野に入ってきた。

ある教会の実際の今日の姿である。なぜそうなつてしまったのか。

原因はいろいろ挙げられよう。教会近隣に住む教員が減り、高齢化が進んでいる。近隣に住む子ども数が激減していて、後継者となる若い世代がない。宗教を堂々と語るのが難しい時代になつた。等々。しかし、それらはどの教会も直面している。しかも、その教会はいわゆる地方の過疎地域にあるのではな

## 恐るべきこと

牧師 伊藤英志

い。都市部にある。伝道のチャンスが見逃されている訳ではない。ただ、決定的な原因は、教会を取り巻く社会的な諸条件の変遷ではなく、誰も気づかないまま教会内部の崩壊が静かに進行していたことであらう。

ある人間の集団や組織にとつて内部崩壊ほど恐ろしいものはない。それをだれも危機でできず、いや、自覚していても危機を共有しようとする意欲がない状態。それは財政破綻した自治体や倒産した会社社だけではな

く、教会にもあてはまる。

教会にとつての内部崩壊とは何か。それは、神ならぬものを神としてきた歩みに目を閉ざしているさまである。いつのまにか人間中心の発想で、人間依存の思考に取りつかれて、それを心地よいものとして尊んできた歩みである。

人間中心の発想とは、牧師や有力信徒への依存であり、ありし日の想い出依存である。結果として自己自身の教会に陥つてしまう。せつかく

の新来会者も「あなたがたの想い出話を聞きたくて教会に来たわけではない」と足が遠ざかるだろう。人間依存の思考とは、神に自らを託し委ねると口では言いながら、結局、実力があるとされる人間がもたらす結果に期待を寄せつつ、傍観している思考と姿勢だろう。

少なくとも新来会者は、そこで起こっている内部崩壊の現実を靈的な感覚で感じ取る。本気になって救いを求めているとしたらなおさらだ。内部崩壊を食い止める方法はある。想い出に逃げ込む誘惑から離れ、「教会を格好の舞台にして、わたしがやりたいこと」を自制し、牧師も信



徒も悔い直め

を深くし、自らを新しく献け直す相互の自己浄化、これしかない。恐るべき内部崩壊は、どの教会にも既に浸透しているのかもしれない。しかし、「我々は、ここで何をしようとしているのか」という問いに本気になって立ち戻ろうとするとき、それまで誰が目にしたことのない道が開かれていく。人の栄光でなく、畏れるべき神の栄光が現れ出ている教会が、そこにきつとたちあがるだろう。